

脳梗塞の診断で入院し、 入院早期にリハビリ治療を受けた症例の割合

【指標の説明】

脳梗塞では筋萎縮や筋力低下、関節の拘縮、褥瘡、抑うつ的な精神症状といった症状が生じ、適切なリハビリテーションが行われないとこうした症状が固定化し、患者さんの療養生活の質を大幅に低下させることになります。このような症状を「廃用症候群」と呼ぶことがあります。

発症後早期からのリハビリテーションを行うことがガイドラインでも推奨されています。

本指標はそうした活動を評価するものです。

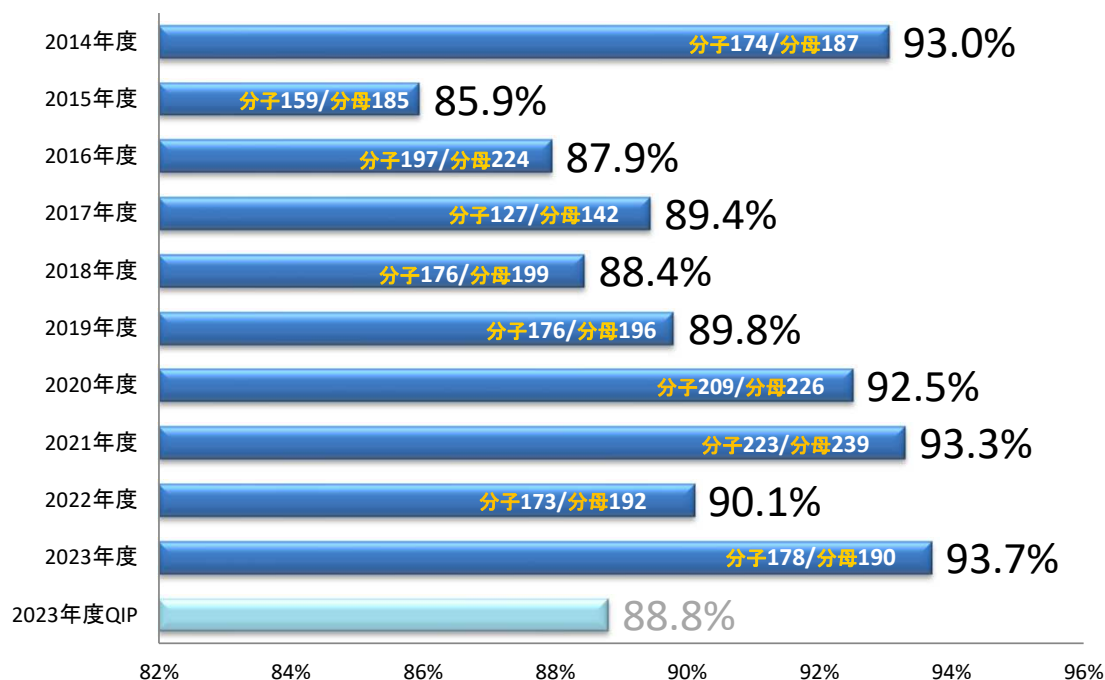
【定義】

京都大学QIP (Quality Indicator/Improvement Project) の定義に準じています。

分子 分母のうち、入院後3日以内にリハビリが開始された患者数

分母 発症後3日以内に入院し、該当年度内に退院した患者数(死亡例は除く)

※ただし、当院の2013年度の数値は「脳卒中」患者を対象としたものです。



京都大学QIP 2023年度計測結果より、参加する病院(500施設以上)の平均